

事業実績書

団体名	吉敷地区地域づくり協議会
-----	--------------

1 地域づくりの活動方針（テーマ）

住民一人ひとりが主体的に地域の中でふれあい、ともに支え合う土壌をつくりあげていくことが重要であり「みんなで支え合う 笑顔あふれるふれあいのまち 吉敷」をスローガンに、次の5つの分野に地域課題を整理するとともに、地域としてこれから目指していく将来像を掲げ、課題解決に取り組んでいきます。

- 活動目標1 「地域振興」 ふれあいと交流による元気で住みよいまち
- 活動目標2 「地域福祉」 とともに支え合い心豊かに暮らせるまち
- 活動目標3 「安心・安全」 みんなで協力してつくる安心で安全なまち
- 活動目標4 「環境づくり」 美しい自然をみんなで守る快適なまち
- 活動目標5 「地域個性創出」 固有の歴史や文化による個性あふれるまち

2 今年度、重点的に取り組んだ視点（事業）

①	視点	跡地を活用した地域振興ビジョンの策定		
	事業名	旧出張所・公民館跡地利活用検討	決算額	127,970円
②	視点	ホテルを通じた地域住民のふれあいや交流の促進		
	事業名	よしきホテルのタベ	決算額	137,925円
③	視点	誰もが集える場の提供による地域住民の交流と見守る関係づくりの促進		
	事業名	地域食堂「えがお食堂よしき」	決算額	89,222円

3 今年度の重点的視点（事業）に対する評価

検証（成果、来年度以降への改善点等）	自己評価
<p>①ふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを進めるために、旧出張所・公民館跡地活用について平成27年度に設置した特別委員会において継続して協議、検討しているもの。今後、高齢化の進展により免許証返納の動きが加速化することが見込まれるため、自家用車に代わる移動手段の確保が看過できない課題となっており、以前よりコミュニティバスの路線延伸に要望を幾度となく行ってきたが、早期解決は望まれない状況であることから、代わりとなるコミュニティタクシーの導入の検討を始めました。跡地活用の観点から、跡地を発着の拠点とし、地域住民の日常生活の移動手段として、また、各交通機関の乗り継ぎ手段として運行できるように検討を始めました。コミュニティタクシーを運行し維持していくために、地域住民の利用アンケートを実施しました。</p> <p>今後は、実証運行の実施に向けて、運営組織設置の検討を始め、積極的な地域住民の利用が不可欠であることを伝えるとともに、導入する地域が運行ルートや時刻・停留所などが設定できるため、運行計画の作成に取り組みます。</p>	◎

②吉敷川が貫流する吉敷地域は、県内でもホタルが乱舞する地域として知られており、現在も良城小学校児童や地域住民による「ホタルをはぐくむ会」において、ホタルの増殖・放流事業に取り組んでいます。このような中、吉敷のホタルを通じて、地域への関心や愛着を深め、自然環境の保全の意識の高揚を図るとともに、ふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進するために、「よしきホタルの夕べ」実行委員会を立ち上げ、開催しました。これには、幼稚園、小学校、中学校、良城商工振興会等も参画し、地域ぐるみでイベントを盛り上げました。

初日、地域交流センター会場では、ホタル観賞のスポットや、良城小学校ホタル委員会の取り組みを紹介するパネル展示、また、ステージイベントを行いました。良城商工振興会では屋台を出し、多くの人を楽しみました。

次の日は、ホタルカゴづくりや生態講座を行い、夜は、吉敷川沿いを良城橋付近から赤田神社までホタルを鑑賞しながら散策しました。

次年度は開催日を1日として、より多くの地域住民の参加と新たな交流の創出につながるよしきホタルの夕べの開催に、引き続き取り組みます。

◎

③昨年度1月にえがお食堂よしき実行委員会を設置し、子どもから大人まで誰もが集える場所の提供をすることで、地域住民が互いに知り交流することを目的に、NPO法人こども明日花プロジェクトと共催で、昨年度2月から毎月1回開催しました。

毎回、運営や調理を担うボランティアにより、平均230名の来場者の対応をしました。地域住民間の交流は基よりボランティア間での交流がきっかけとなり、地域活動へ参加する人も現れ、新たな人材発掘のキッカケとなることができました。

当初の計画どおり、いずれは地域の中で事業すべての経費を賄うことができるような取り組みとして広げていくための検討をしました。1年間実施したことで、見えてきた成果も課題もあり、1年間開催した2月末に実行委員会を開催し、現況報告と今後について協議しました。今後は課題解決のためにアンケート調査を実施し、その結果を検証し、今後の方向性について協議、検討します。

◎

◎（大変よくできた） ○（概ねできた） △（課題が残った） ×（全く出来なかった）

4 総括

「吉敷まちづくり計画」をもとに、課題解決に向け地域で活動している様々な団体や行政と連携しながらまちづくりに取り組みました。

ふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進するために、「よしきフォトコンテスト」や地域食堂「えがお食堂よしき」を開催するとともに、地域ぐるみによる見守り活動の仕組みづくりにも取り組む「ふれあいネットワーク協議会」により、関係団体との意見交換をすることができました。多くの地域住民や地域づくり関係団体の参画による実行委員会は、地域課題の解決に向けての地域での話し合いの場となっています。

また、高齢化の進展により免許証返納の動きが加速化することが見込まれ、自家用車に代わる移動手段の確保が地域住民の看過できない課題となっていることから、コミュニティタクシー導入の検討を開始し、地域住民の意見を把握するためのアンケート調査を実施した結果、6割を超える回答率は地域住民の関心の大きさが垣間見えました。

地域情報を広く地域住民に伝えるため、地域住民と地域づくり関係団体等からの参画を得て設立された広報委員会は、地域の情報の収集や発信に努めながら4年が経過し、この間、地域広報紙やウェブサイトの充実に取り組むとともに、町内会・自治会未加入者にも広報紙を手にとっただけのよう配布先の拡大などにも取り組みました。地域住民からは一定の評価が得られるとともに、山口県公民館報コンクールにおいては優良賞を受賞することができました。

地域の史跡等の案内板を設置し、地域の歴史を知るきっかけづくりにも取り組み、多くの地域住民の評価を得ました。

5 事業内容

(1) 協議会運営

事業費	11,422,382円（交付金5,030,732円） （内自主財源：6,391,650円）
事務局の運営体制	<p>（事務員等の雇用人数） 事務局長1名 事務員4名</p> <p>（運営費の主な内容） 事務局人件費、事務費</p> <p>（成果・評価） 吉敷地域は、地域づくり協議会業務をはじめ、自治会業務、地区社協業務、地区社協が受託する指定管理業務など多岐にわたる業務を5人体制で担っており、事務局員は慌ただしい時期を過ごすこともありました。こうしたことから、都度、地域づくり協議会役員や地域交流センターと運営や業務について意見交換を行い地域交流センターと連携して業務を進めており、一定の運営支援は得られています。今年度は、コミュニティ助成金（宝くじ）が当地域にあったため、地域活動に必要な備品等を購入することができました。</p> <p>（今後に向けて） 地域づくり活動や地域福祉活動支援など、多岐にわたる業務に事務局長1名、事務局員4名体制で効率的に遂行するため、業務の棲み分けや、事務分担の見直しなどに取り組むことが必要であり、地域づくり関係団体や地域交流センターとの連携が重要です。</p> <p>年々業務が増加していることから、事務局の負担を軽減するため、引き続き、地域づくり協議会役員や地域づくり関係団体、地域交流センター等と協議・連携しながら、事務局運営を行っていきます。</p>

(2) 地域振興

事業名	ふれあいネットワーク
事業費	96,120円（交付金96,120円）
事業概要	<p>（実施内容） 吉敷地域の見守り活動やふれあいあいさつ運動を総合的に推進する「ふれあいネットワーク協議会」において、子どもの安全を守る諸団体の意見交換会を開催し、小学生、中学生の通学路を再確認しました。関係団体どうしで、通学路の安全性に対する問題点を洗い出し、解決方法等について意見交換しました。また、吉敷ふるさとまつりにおいて応募のあった標語の中から選出された作品を地域広報紙に掲載するなど、ふれあいあいさつ運動を推進しました。毎月の鴻南中学校区地域協育ネット「あいさつの日」に合わせて、登校時間帯の立哨にも取り組みました。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 2,000人</p> <p>（成果） 昨年度設置した「ふれあいネットワーク協議会」において関係団体が一堂に会し意見交換をしたことから、新たな関係団体との関わりが生まれました。吉敷ふるさとまつりで「ふれあい標語」を募集し、地域広報紙「ふるさとだより よしき」で紹介するなど、ふれあいあいさつ運動に取り組みました。</p> <p>（評価） 年間を通して、ふれあいあいさつ運動に取り組むことができました。吉敷地域の取り組みである「あいさつの日」の立哨箇所に工夫を加えながら、活動に参加する人の増加に取り組みました。また、吉敷地域の見守り活動やふれあいあいさつ運動を総合的に推進する「ふれあいネットワーク協議会」により、地域住民や地域づくり関係団体とで協議・検討することができるようになり、地域内の様々な情報もメールで配信することができました。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、「ふれあいネットワーク協議会」において吉敷地域の見守り活動を総合的に協議・検討し、子どもや高齢者の見守り総決起大会をそれぞれ開催し、吉敷地域の見守り活動を推進します。</p>

事業名	旧出張所・公民館跡地利用
事業費	127,970円（交付金127,970円）
事業概要	<p>（実施内容） まちづくり計画に沿った「ふれあいと交流による元気で住みよいまちづくり」を推進するため、総務・企画委員会において有効な活用方法の検討を進めました。跡地を拠点とした自家用車に代わる移動手段について、他地域の情報を収集しながら協議・検討しました。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） 高齢化の進展により、免許証返納の動きが加速化することから、自家用車に代わる移動手段としてコミュニティタクシー導入の検討を開始し、コミュニティタクシー導入に係る地域住民のニーズを把握するためにアンケートを実施することができました。</p> <p>（評価） 跡地を発着の拠点とした検討しているコミュニティタクシーのルートに該当する町内会・自治会との連携により、アンケート調査がスムーズに進みました。</p> <p>（今後に向けて） 実証運行の実施に向けて、運営組織設置の検討を始め、運行計画の作成に取り組みます。</p>

事業名	夏まつり・ふるさとまつり
事業費	846,338円（交付金656,495円） （内自主財源：189,843円）
事業概要	<p>（実施内容） 夏祭り、秋祭りの開催</p> <p>（実施時期） よしき夏まつり8/13、吉敷ふるさとまつり11/10</p> <p>（参加人数） 延べ3,000人</p> <p>（成果） 若者を中心とする実行委員会も5年目となり、新たな実行委員を加えながら企画から準備など円滑な運営ができました。活発な意見が交わされ、新しいアイデアに積極的に取り組むなど、吉敷の祭りに新たな風を吹き込むことができました。</p> <p>（評価） 新たな企画により、多くの参加者とのふれあい、交流が図られるとともに、新たな実行委員を中心とした運営を進めるための基盤づくりが確立されつつあります。</p> <p>（今後に向けて） 新たな委員による実行委員会を継続するため、事務局との役割分担等を検討するとともに、楽しく関われる会にするには実行委員どうしの交流も必要であるため交流にも取り組みます。</p>

事業名	よしきフォトコンテスト	
事業費	615,072円（交付金558,272円）	（内自主財源：56,800円）
事業概要	<p>（実施内容） テーマに沿った写真のコンテスト</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） 地域住民や地域づくり関係団体で組織する実行委員会の中で、イベント等への参加者の増加を図るとともにより多くの写真の応募につながるよう検討を行い、地域内外から169点の応募作品を集めることができました。また、応募写真をカレンダーにして配布することにより、多くの方々に吉敷地域のことを知っていただくとともに地域の魅力を再発見していただきました。引き続き、より多くの地域住民の参加と新たな交流の創出につながるフォトコンテストの開催に取り組みます。</p> <p>（評価） 誰もが気軽に参加できるように、夏まつりやふるさとまつりの会場において応募ブースを開設することで、交流したり、ふれあう人々の写真を広く募集することができました。地域内のイベントや交流の場を広く紹介するための応募作品などを活用した「よしきフォトカレンダー」は好評を博しましたが、様々な地域住民からの意見から、次年度は形を変えたカレンダーの作成を計画しました。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、地域住民や地域づくり関係団体が集まる実行委員会で、誰もが応募できる「よしきフォトコンテスト」が継続できるように進めていきます。</p>	

事業名	人材発掘に向けた交流事業	
事業費	197,617円（交付金197,617円）	
事業概要	<p>（実施内容） 地域の人材発掘のため地域交流センターと共催で実施する交流事業について、地域づくり協議会はアクティブエイジを対象に、地域交流センターは若者を対象にした事業をそれぞれ担当しました。アクティブエイジの交流事業は、吉敷地域出身の講師を招き「昭和の吉敷と少年Y」と題した講演会と交流会を開催しました。若者対象の事業は、親子や現役世代の交流の拠点として、休耕田を活用した「YOSHIKIわくわくファームらんど」を開園し、家族単位の親子で野菜を育て、その収穫した野菜で夏、秋に交流イベントを開催しました。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 200人</p> <p>（成果） 交流事業は、地域づくり協議会と地域交流センターがそれぞれ「若者」「アクティブエイジ」と担当を持つこととし、それぞれが交流事業を開催することができました。</p> <p>（評価） 地域づくりを進めていくには、新たな人材を知ることが重要であり、そのきっかけとなる交流事業は地域づくりの中心的な事業の一つです。アクティブエイジの交流については、多くの住民を巻き込む具体的な事業の組み立てには至っていませんが、若者の交流については、地域の耕作放棄地等を活用して、現役世代親子の参加を募り、農業を体験しながら住民どうしの交流を促進する場を創出する企画について協議・検討を進め、次年度も実施に向けた準備を進めるなど、一定の進捗がみられます。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き地域交流センターと連携しながら、人材発掘と育成のための事業を進めていきます。</p>	

事業名	広報活動
事業費	416,870円（交付金405,270円） （内自主財源：11,600円）
事業概要	<p>（実施内容） 地域づくり関係団体や地域住民等の参画を得て設置した「広報委員会」により、地域住民に対して発信していきたいことや、お知らせしたいことなどを互いに持ち寄り、広報紙やウェブサイトなどを活用して、地域の様々な情報を発信しました。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 20人</p> <p>（成果） 地域情報を広く収集しながら、魅力ある広報紙の作成やウェブサイトの充実に取り組みました。また、広報紙に新たなコーナーを設けたり、新たな広報委員も広く地域住民から募集するなど、地域に開かれた広報委員会運営に努めるとともに、町内会・自治会未加入者にも広報誌を手にとっただけのよう配布先の拡大などにも取り組みました。こうした結果、地域住民からは一定の評価が得られるとともに、山口県公民館報コンクールにおいては「優良賞」を受賞することができました。</p> <p>（評価） より多くの地域住民のもとへ広報紙を届けたいという広報委員の地道な活動により、地域に広く知っていただける広報紙となっています。吉敷地域の魅力を届けたいと、広報委員会では活発な意見も多く出るようになりました。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、紙面の充実や配布の拡大等に取り組んでいきます。</p>

事業名	人権学習の推進
事業費	160,462円（交付金160,462円）
事業概要	<p>（実施内容） 各種啓発活動や講演会の開催に取り組みました。</p> <p>（実施時期） 10月、11月</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） 偏見や差別のない地域社会の形成を進め、ふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進するために、幼稚園、小学校、中学校と連携した講演会を開催するなど人権学習に取り組みました。</p> <p>（評価） より多くの地域住民が参加できるように、チラシを回覧するなど講演会の広報に力を入れ、それぞれの講演会には地域住民が足を運ぶことができました。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、偏見や差別のないふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりに取り組んでいきます。</p>

事業名	こどもドリームプロジェクト
事業費	53,396円（交付金50,000円） （内自主財源：3,396円）
事業概要	<p>（実施内容） 吉敷出身のプロサッカー選手である原川力選手の帰山に合わせて、子ども達との交流として「こどもドリームプロジェクト吉敷～Jリーガー原川力選手によるサッカー教室～」を開催し、子どもたちが夢を持てるように交流の場を設けました。</p> <p>（実施時期） 12月</p> <p>（参加人数） 90人</p> <p>（成果） プロスポーツ選手と子ども達との交流は、企画の段階から地域住民の参画が得られるとともに、サッカー教室当日はスポーツ少年団やその家族など多くの参加があり盛況でした。</p> <p>（評価） 原川力選手を呼ぶサッカー教室は、サッカースポーツ少年団の子どもたちを始め、その保護者も楽しみにしている事業のひとつとなって定着してきました。</p> <p>（今後に向けて） 今後も引き続き、地域の子どもたちが夢を持てるように、吉敷にゆかりのあるプロスポーツ選手やアーティストとのふれあう機会の創出に努めます。</p>

(3) 地域福祉

事業名	大運動会・多世代交流グラウンドゴルフ大会
事業費	225,085円（交付金161,065円） （内自主財源：64,020円）
事業概要	<p>（実施内容） 親睦やふれあいを目的とした大運動会や地区親睦ゴルフ大会、多世代交流グラウンドゴルフ大会を開催しました。</p> <p>（実施時期） 11月・3月</p> <p>（参加人数） 100人</p> <p>（成果） 大運動会は、体育振興会を中心に年齢層を考慮した種目の検討を行うなど、地域住民が参加しやすい大会運営に努め、2年ぶりに開催することができました。また、大運動会は、地域で一番大きな交流の場であり、様々な年齢層の住民の方々が交流を深めるとともに、地区を越えた交流ができました。親睦ゴルフ大会は、実行委員会が中心となり呼びかけを行うなど、新しい参加者の顔も見えるようになっていきます。グラウンドゴルフ大会は、大人と子どもがチームを組む地域独自のルールで楽しみながらプレイすることが定着しています。老人クラブが中心となり、準備を進めていましたが、新型コロナウイルスの感染症拡大防止の観点から、残念ながら中止となりました。</p> <p>（評価） 誰もが参加しやすい種目を取り入れた大運動会やグラウンドゴルフなどを開催することにより、新たな参加者も得られています。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、多くの地域住民が参加しやすい事業となるよう、次年度に向けて準備を進めていきます。</p>

事業名	えがお食堂よしき
事業費	89,222円（交付金52,422円） （内自主財源：36,800円）
事業概要	<p>（実施内容） 近年希薄となっている地域住民どうしの交流やふれあいの場を復活させ、ともに支え合い心豊かに暮らせるまちづくりを推進します。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 3,000人</p> <p>（成果） 毎月多くの地域住民が食事を通じた交流を楽しむことができました。地域食堂を通じてボランティアスタッフの発掘、育成に取り組みました。</p> <p>（評価） 交流を第1の目的としたえがお食堂よしきの開催を通じてたくさんの地域住民が集い、交流を図ることができました。また、食後に開催した多世代の人が楽しめる企画を実施したところ、多くの人が集まり楽しみました。</p> <p>（今後に向けて） 地域の温かい気持ち（募金、寄付など）から成り立つこの事業の意図が、無料の食堂として来場している人が多い中、どれだけ浸透しているか。その無料の食堂開設のために、1ヶ月間ボランティアスタッフが活動する意味が見出せなくなる気持ちが大きくなっていることが危惧されていることが、2月に開催した実行委員会で確認されました。今後は、広く来場者の皆さんからアンケートを取り、この事業の推進をすべきかどうか等も含め、協議・検討を進めていきます。</p>

(4) 安心・安全

事業名	地域防災体制の充実
事業費	104,853円（交付金104,853円）
事業概要	<p>（実施内容） 地域広報紙などを活用した防災知識の普及・啓発や防災講演会・学習会などの開催に取り組みました。また、自主防災組織を設立し、防災計画の策定や図上訓練に取り組み、防災資機材の整備について検討しました。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） 地区防災会から選出した広報委員により、地域住民に対して活動内容をウェブサイトで紹介したり、自主防災組織等の必要性を伝えてきました。図上訓練を経験した後、防災資機材を活用した訓練も開催し、地域防災事業の推進に努めてきました。</p> <p>（評価） 地域住民に対して防災意識の高揚や防災知識の普及・啓発などを行うとともに、図上訓練に基づく現地確認を実施したことは、一定の事業推進ができました。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、地域防災体制を充実していくため、各町内会・自治会から選出された防災委員との連携体制などの地区防災会の組織強化を進めていくこととしています。</p>

事業名	交通安全・防犯対策
事業費	203,000円（交付金203,000円）
事業概要	<p>（実施内容） 交通立哨や各種交通安全講座、青パトによる巡回などに取り組みました。うそ電話詐欺防止キャンペーンや防犯パトロールなどに取り組みました。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） 地域住民に対して、安全・安心まちづくり総決起大会やうそ電話詐欺防止キャンペーン、防犯パトロールなどに取り組み、委員が率先して交通立哨などを実施しながら、交通安全や防犯対策等の必要性を伝えてきました。</p> <p>（評価） 地域住民に対して、交通安全やうそ電話詐欺防止への普及・啓発などを行ない、定例的に青パトによる巡回を実施したことにより、地域住民が交通安全やうそ電話詐欺などを普段の生活の中で意識することができました。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、活動を通して地域住民に交通安全・防犯対策等の必要性への周知に取り組みながら、地域の交通安全・防犯対策を進めていきます。</p>

事業名	反射鏡・交通安全施設の充実
事業費	200,000円（交付金200,000円）
事業概要	<p>（実施内容） 町内会・自治会等からの要望に基づき、反射鏡や交通安全施設を</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） 町内会・自治会からの要望に基づき交通安全対策を実施しました。</p> <p>（評価） 路面表示により交通事故防止に寄与しました。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、町内会・自治会を通して地域住民に補助制度を周知しながら、地域の交通安全対策を進めていきます。</p>

事業名	青少年の健全育成
事業費	219,542円（交付金219,542円）
事業概要	<p>（実施内容） 青少年の健全育成のための見守り活動や各種啓発活動に取り組み</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） あいさつを通じて、地域住民どうしが顔見知りになるとともに、見守り活動を拡大することから、青少年の安心安全、犯罪の抑制を図ることができました。</p> <p>（評価） 青少年の健全育成を地域ぐるみで進めることにより、みんなで協力してつくる安心で安全なまちづくりを推進することができました。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、関係団体とともに活動を通じ、連携を取りながら青少年の健全育成のための対策を進めていきます。</p>

(5) 環境づくり

事業名	環境づくり
事業費	290,002円（交付金290,002円）
事業概要	<p>（実施内容） 環境美化活動の推進と自然環境の保全に取り組みました。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） 関係団体との連携のもと、美しい自然をみんなで守る快適なまちづくりを推進することができました。</p> <p>（評価） 関係団体からの課題を見つけ、その解決のために関係団体との連携のもと事業に取り組んだことは、今後の取り組みへの糸口が見つけれられたものと思われます。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、関係団体との連携を強化し、美しい環境づくりを目指しながら快適なまちづくりを推進します。</p>

事業名	ホタル増殖・放流事業
事業費	137,925円（交付金87,925円） （内自主財源：50,000円）
事業概要	<p>（実施内容） 学校、地域、行政の連携により、5月には河川清掃、6月にはホタル採取を行い、9月には良城小学生のホタルに関するポスターや標語作品の表彰とホタルの飼育状況の発表といった式典、3ヶ月間良城小学校で飼育したホタルの放流を行いました。</p> <p>（実施時期） 5月～9月</p> <p>（参加人数） 700人</p> <p>（成果） 毎年の活動によりたくさんのホタルが飛び交っています。来年度も、ふるさとの川にたくさんのホタルの乱舞が期待できます。</p> <p>（評価） 地域は学校・子ども・ホタルのために参加し、学校は地域づくりの一翼を担うため開かれた学校を目指し、子どもたちは環境意識を高め、それぞれがふるさとへの愛着と命の尊さを学ぶことができ、改めて有意義な事業だと考えています。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、小学校との連携を強化し、美しい環境づくりを目指します。</p>

(6) 地域個性創出

事業名	文化振興
事業費	1,050,937円 (交付金861,977円) (内自主財源:188,960円)
事業概要	<p>(実施内容) 地域散策イベントや郷土学習講座の開講、文化財の活用に向けた調査・検討など、文化による地域づくりに取り組みます。案内板の整備や文化遺産資料の収集、文化の保存・継承に取り組みました。</p> <p>(実施時期) 通年</p> <p>(参加人数) 100人</p> <p>(成果) 吉敷と幕末・明治維新 大田・絵堂の戦い散策バスツアーには、定員を大きく上回る申し込みがあり好評を得ました。そのツアーでは、昨年度蘇らせた肥中街道の一部を歩きました。その後、街道に横たわる石灯籠を起こし、昔の風情を取り戻しました。昨年に引き続き、古文書を教材とした「古文書読書会」を開催しました。多くの方に吉敷地域を知り、散策していただくため、今年度は凌雲寺跡への大看板を設置し、文化の保存・継承に取り組みました。</p> <p>(評価) 吉敷と幕末・明治維新 大田・絵堂の戦い散策バスツアーには、定員を大きく上回る申し込みがあり好評を得ました。拡大案内看板の設置や古くなり読めなくなっている案内板のつくり替え設置により、住民に吉敷地域を散策してもらうための基盤づくりができました。</p> <p>(今後に向けて) 引き続き、多くの地域住民の参加が得られる地域散策講座や郷土学習講座、歴史等散策ツアーの開催などに取り組み、文化による地域住民の交流をさらに進めていきます。</p>

事業名	凌雲寺跡活用の検討
事業費	77,770円 (交付金77,770円)
事業概要	<p>(実施内容) 国の史跡に指定されている大内氏遺跡の凌雲寺跡の活用について取り組みました。</p> <p>(実施時期) 通年</p> <p>(参加人数) 地域住民</p> <p>(成果) 周辺の町内会との連携により、周辺に住む地域住民の要望等の把握ができました。</p> <p>(評価) ドローン空撮により凌雲寺跡の景色を知ることができ、今後の活用の素地をつくることができました。</p> <p>(今後に向けて) 引き続き、関係団体との連携を強化し、美しい環境づくりを目指しながら快適なまちづくりを推進します。</p>